

和の
住まい方を
再発見する家

四世代で過ごす

民芸調とナチュラルの融合



上／玄関脇には木連格子。南に面したお母様の部屋の目隠しにもなっている。
下／南面外観の夜景。外壁の一部はジョリパットの揺き落しで変化をつけている。

A邸(長野県松本市)
延床面積/268.59㎡
(株)国興

広い接客空間 坪庭の景色に心やすらぐ

上／玄関正面のホールは、坪庭の景色を楽しめる接客空間。右に和室も連続する。
下右／畳敷きの玄関ホールから玄関戸を見返す。玄関部分の壁は珪藻土。
下左／畳敷きの玄関ホール。正面の障子を開けると、坪庭まで見通せる吹抜けに。



廊下を中心に各部屋を配置。バルコニーに面したファミリールームには大きな開口を設け、ロフト付きの子供室には高窓を設けるなど、明るく快適な住空間を実現しています。

廊下を進むと四世代が集うリビング・ダイニング。木のカウンター越しにキッチンとも対面しています。フローリングのダイニングと畳の空間が自然に連続し、民芸調でありながら無節のヒノキや珪藻土も織り交ぜて、重々しい雰囲気になりすぎない空間になっています。家の西側に畑があるため、家族用の玄関土間が設けてあるのも便利です。

また、1階は民芸調に濃い色をつけているのに対し、2階はナチュラルな色彩として変化をつけています。2階はホー

坪庭と吹抜けが迎える 畳敷きの玄関

松本市郊外、北アルプスを望み梓川に程近い田園の中の集落に住むA様は、築40年の旧宅を建替えました。A様のご希望は、坪庭の見える吹抜けのある玄関と、四世代が集う開放的なリビング・ダイニング。2階は若夫婦世帯の居住スペースですが、食事は1階のダイニングで一緒にとるように考えられています。派手になりすぎないように、デザインや色調も抑え目で、「想いをかたちにできた」とA様はおっしゃいます。

畳敷きの玄関からは、その先のホール越しに坪庭の燈籠が眺められ、見上げると広い吹抜けに古材風の梁が渡されています。ホールと連続する和室は本格的なつくりで、床脇に吊り入れと地窓を設けています。さらに隣接する寝室には、木のカウンターを設けた書斎や筆筒スペースも併設しています。



吊押入の下に地窓を設けた座敷。座敷内法はヒバ材。床柱は香檜。



右／玄関からリビングへ向かう廊下にも飾り棚を設けた。
 左上／2階ファミリールームは階段方向に、障子風の建具を入れた窓を設けている。
 2階は民芸調ではなく、ナチュラルな仕上げに。
 左下／ロフトのある2階子ども部屋。



玄関正面のホールは、民家風のデザインを取り入れた開放的な吹抜け空間。

上/ダイニング南側に隣接する茶の間。雛人形はこの家の由緒あるもの。置き床風の地板も備えている。
下/1階寝室。隣接して長いカウンター付きの書斎スペースを設けた。



旧家の記憶を残す 古材を活用

A邸では、以前のお住まいで使っていた古材を再利用しています。座敷の吊り押入の敷居、居間の飾り棚には、古い家のケヤキの框を使用。歴史あるこの家の風格を、今後も伝え続けるでしょう。

また、外断熱+ハイブリッド換気システムを採用し、高気密・高断熱でありながら、空気が循環し木を健康に保ちます。さらに、少ない暖房設備で、温度面でのバリアフリーも実現しています。



上/浴室は窓や鏡が大きく、ゆったりとした雰囲気システムバスを採用。
下/車椅子での使用も配慮した広いトイレは、高齢者の居住空間近くに設置。



上/キッチンカウンター越しにダイニングテーブルと、その向こうに連続する茶の間。
下/ダイニングルームは古民家風のデザインをベースに、白木のヒノキ材も用いて、あまり重くなりすぎない雰囲気になっている。



Point

ワンポイント 解説

ひとつ屋根の下で、四世代が暮らす家です。考えただけでも大変な仕事に思えます。このような場合まず考えることは、お互いのプライバシーです。しかし、この家では、そのことをふまえた上で家族全体が一緒に食事をとり、食後の一家団欒の場として年配者に配慮した畳敷の茶の間を設けています。肩を寄せ合い、仲良く暮らす暖かい家庭を想像すると、住宅の原点はここにあるのではないかと思います。

(出山博茂)

DATA

延床面積 238.59㎡ (72.03坪)
1階 175.67㎡ (53.03坪)
2階 62.92㎡ (19.00坪)
構造 木造軸組工法
家族 母+夫婦+若夫婦+子ども

施工 株式会社 国興
設計 田中一級建築士事務所
長野県松本市寿南1-7-22 (〒399-0027)
TEL.0263-58-2095 FAX.0263-58-2015
http://www1.odn.ne.jp/cocco/
cocco@pop01.odn.ne.jp

